



餅もち
屋橋やばし
餅もちをもらつて

伊勢参まいり

目めをつぶり
古墳こふんの森もりに
昔むかしをおもう

向むけかいから
太子たいしを見み守まもる
西方さいほう院

実みる秋あき
ぶどうぶどうの粒つぶは
宝石ほうせきに

まちのなか
青く輝かがやく
回転かいてんとう灯

(も) 孝徳天皇陵と大道旧山本家住宅を下ると、石碑せきひが建つています。道標を兼ねたこの石碑には、「餅屋橋」と刻まれており、かつてこの橋のたもとに餅屋もちやがあつたことから名づけられたと伝えられています。江戸時代に庶民の間で伊勢参まいりがブームとなり、伊勢をめざした人が険しい竹内峠の途中で行き倒れになることを恐れ、餅の振る舞ふまいをしたと言われています。

(め) 太子町には、数多くの天皇・皇族クラスの古墳こふんが集中しており、一帯は磯長谷古墳群と呼ばれています。また、エジプトの「王家の谷」になぞらえて、「王陵の谷」とも呼ばれ、その中心となるのが梅鉢うめばい御陵と呼ばれる、敏達・用明・推古・孝徳天皇陵と聖徳太子御廟です。古墳から出土する色々な副葬品は、埋葬者のことや当時の生活の様子を解明する手かりとなっています。古墳群の森に入り目をつぶると、昔の情景が浮かんでくるようです。

(む) 西方院は、日本最初の尼寺で、聖徳太子の乳母おほであった月益姫、日益姫、玉照姫の3人が、剃髪ひげはつして仏門ぶつもんに入り、太子の遺髪ゆがいを納めて冥福めいふくを祈ほったのが始まりと伝えられています。聖徳太子御廟おとくたいそうごびょうがある叡福寺の向かいに建てられており、1400年も前から3人の乳母うばたちが太子を見守り続けています。

(み) 太子町では古くからぶどう栽培さいばいが盛んに行われ、町の特産品とくさんひんとなっています。食べやすいテラウエア、粒の大きい巨峰、皮かわと食べられるシャインマスカットなど、豊富な種類しゅるいがあります。収穫時期しうかくじに実を太らせて美しく色ついたぶどうはあるで宝石ほうせきのようです。大切に育てられた、甘く美しいぶどうは太子町の自慢の特産品です。

(ま) 青色防犯パトロール隊(通称青パト)とは、青色の回転灯を装備した自動車を用いて行われる防犯もは地域で「守る」を合言葉に、地域のボランティアが犯罪抑止・事故防止のため、青パト活動を行っています。太子町がより住みやすい、安全なまちとなるよう、今日も青パトはまちを巡回していきます。